



北海道博物館要覧 2016・2017



# 北海道博物館要覧

## 2016-2017





# ごあいさつ

平成 27(2015)年 4 月に開館しました「北海道博物館」は、北海道開拓記念館(1971 年開館)と北海道立アイヌ民族文化研究センター(1994 年開所)という 2 つの道立施設を統合して新たに開設された博物館であり、2 つの道立施設がそれぞれに築き上げてきた伝統や優れた業績を受け継ぎ、名実共に北海道を代表する「総合博物館」をめざしています。

開館に当たりまして、博物館をとりまく社会状況の変化、北海道の地域的特性などを踏まえ、北海道博物館が果たすべき 4 つの社会的使命を明文化し、道民と共に歩み、愛される博物館として「道民参画型博物館」をめざすとともに、北海道の「中核的博物館」として地域の博物館などとの連携を図り、地域活性化に貢献することをめざしています。また、北海道博物館は、約 30 名の学芸員・研究職員を擁する「研究博物館」でもあり、多様な専門的・総合的研究の成果を活かして北海道の未来への貢献を図っています。さらには、アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的研究組織を有する世界に誇るべき総合博物館として、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。



北海道博物館長

石森 秀三

総合展示は「北東アジアのなかの北海道」と「自然と人のかかわり」をコンセプトとし、北海道の自然・歴史・文化を物語る 5 つのテーマで構成しています。プロローグ「北と南の出会い」に始まり、「北海道 120 万年物語」、「アイヌ文化の世界」、「北海道らしさの秘密」、「わたしたちの時代へ」、「生き物たちの北海道」へと続き、北海道の自然・歴史・文化について共に考え、語り合える場として、数多くの皆様方にご利用いただいております。幸い、旧北海道開拓記念館の末期には年間入館者数が 5 万人程度でしたが、北海道博物館の初年度には約 15 万人、翌年度は 10 万人を超える入館者をお迎えすることができました。

また、北海道博物館としての特別展も、開館記念特別展として「夷酋列像：蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界」を開催し 5 万人を超える方々にご観覧いただき、翌年の第 2 回特別展では、当館の使命のひとつであります中核的博物館として、道内の 5 つの認定ジオパークと連携し「ジオパークへ行こう！ー恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅ー」を開催し、6 万人近くの方にご観覧いただくとともに、この特別展をきっかけに各地域のジオパークへの訪問につながるなど地域振興にも貢献することができました。第 3 回特別展では、多くの人々に愛され、北海道においても多くの物語を生み出してきたスポーツとしての「野球」を取り上げ、野球をとおして北海道の生活文化や産業・経済の歴史も紹介する「プレイボール！ー北海道と野球をめぐる物語ー」を開催し、幅広い年代の方々に観覧していただきました。

北海道博物館はまだ数多くの課題を抱えておりますが、館員一同が力を合わせて一つ一つの課題に取り組んでまいりますので、今後とも何卒宜しくご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りますように、心よりお願い申し上げます。

# 目 次

---

ごあいさつ	1
目次	2
<b>I 北海道博物館の役割と施設概要</b>	
1 館の沿革	6
統合した2つの施設	
2 北海道博物館の使命	9
3 北海道博物館の愛称「森のちやれんが」とロゴマーク	9
愛称	
ロゴマーク	
4 施設概要	10
館の位置と環境	
建物の基本構想と設計	
施設の概要	
5 総合展示室	14
プロローグ 北と南の出会い	
第1テーマ 北海道120万年物語	
第2テーマ アイヌ文化の世界	
第3テーマ 北海道らしさの秘密	
第4テーマ わたしたちの時代へ	
第5テーマ 生き物たちの北海道	
6 特別展示室	18
7 館内の施設	19
8 周辺の施設	21
<b>II 北海道博物館の活動（平成28・29年度）</b>	
1 調査研究	22
道費による研究プロジェクト(海外交流を含む)	
科研費ほか外部資金	
研究成果の発信と公開	
2 資料の収集・保存・活用	40
当館の資料	
資料の収集	
一括資料目録	
資料の収集と保存管理	
資料情報の管理	
資料の活用	
3 展示	46
総合展示室	
特別展示室	
赤れんがサテライト	
休憩ラウンジ	
4 教育普及・来館者サービス	59
総合展示室	
グループプレクチャー	
はっけん広場	
イベント	

5	学習・活動支援	73
	学校教育との連携	
	博物館実習・インターンシップの受入	
	レファレンス対応	
	図書室	
6	博物館ネットワーク	78
	博物館ネットワーク(北海道博物館協会など外部組織との連携)	
	北のミュージアム活性化実行委員会	
	周辺施設とのネットワーク	
	外部イベントへの参画	
7	地域交流・社会貢献	86
	道民参加型組織	
	道民協働・発信事業の展開	
	他機関等との協力・連携	
	当館職員が委嘱を受けた各種委員等	
8	広報	93
	報道機関等への対応	
	学術的な情報や知見の提供	
	広報誌の発行(ちゃれんがニュース)	
	ホームページ	
	ソーシャルメディア	
	出版活動	
	『ビジュアル北海道博物館』	
9	アイヌ民族文化研究センターの活動	103
	アイヌ文化巡回展	
	資料の公開	
	ホームページによる情報提供	
	アイヌ文化紹介小冊子の発行	
	学習・伝承活動の支援	
10	北海道開拓の村整備事業	107
11	館長、学芸・研究職員の紹介	108

### III 北海道博物館の運営

1	施設及び周辺環境の整備	122
	関係機関との連携	
	施設管理	
	博物館資源の活用	
2	北海道立総合博物館協議会	126
	北海道立総合博物館協議会	
	北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会	
3	評価制度	128
	概要	
	内部評価	
	外部評価	
4	利用者調査	132
5	職員の資質向上	137
6	組織・職員名簿	139
7	予算	143
8	利用者数	148

#### IV 資料

統合した2つの組織の主な実績 .....	152
北海道博物館基本的運営方針—北海道博物館の目指す方向— .....	156
北海道博物館中期目標・計画(第1期) 平成27年度～平成31年度 .....	158
条例・規則など .....	162
利用案内 .....	172





# I 北海道博物館の役割と施設概要

## 1 館の沿革

平成4(1992)年の常設展示の改訂から十数年が過ぎた北海道開拓記念館では、研究の進展や、昭和46(1971)年の開館から経年による施設の老朽化、博物館をとりまく社会情勢の変化や多様化社会への対応など、博物館機能の充実が大きな課題となっていました。平成19(2007)年4月には、知事公約に掲げられた開拓記念館のリニューアルを含んだ「北海道ミュージアム」の設置構想の検討が道庁内で始まり、平成20(2008)年5月に知事は、「北海道における博物館のあり方と北海道開拓記念館の役割」について北海道文化審議会に諮問しました。

一方、国会では、平成20(2008)年6月に「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」が採択され、その後、政府が設置した「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」の報告書において、アイヌ文化に係る政策の提言がなされました。これらのことから、アイヌ文化をはじめとする北海道固有の歴史や文化に対する関心が高まり、開拓記念館はさらなる研究の推進や、最新の研究成果に基づく展示や学習の機会、情報発信の充実などの具体的な取組が求められました。

平成22(2010)年9月に道は北海道文化審議会の答申を受けて、「北海道博物館基本計画」(以下、「基本計画」という。)を策定しました。「基本計画」には、「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道における総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」の3つの基本方針を柱とする北海道博物館を設置することが明記され、さらに「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」として、アイヌ民族文化研究センターとの統合により、アイヌ文化に関する調査研究などの機能の充実を図ることが示されました。

平成23(2011)年には、「北海道博物館」の開設に向けた取組が道の特定重点事業として予算化されて、「北海道博物館リニューアルプラン」策定など開設に向けた各事業が実施されました。

平成27(2015)年4月1日には、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターの2つの道立施設を統合し、新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館として「北海道博物館」が開設されました。開館に先立ち、愛称「森のちゃれんが」(道民公募)と、ロゴマーク(民間企業等からの公募)が決められました。

平成20(2008)年	5月	知事が北海道文化審議会に対し「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問
平成21(2009)年	8月	北海道文化審議会が「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について答申
	11月	環境生活部生活局道民活動文化振興課に「北海道ミュージアム(仮称)基本計画検討委員会」設置
平成22(2010)年	5月	「北海道博物館基本計画(仮称)」素案に対するパブリックコメント募集(5月18日～6月17日)
	9月	パブリックコメントの意見の概要及び道の考え方を公表後、「北海道博物館基本計画」策定
平成23(2011)年	4月	「北海道博物館」設置に向けた取組を推進するため、「北海道博物館設置推進事業」を北海道の特定重点事業として予算化
	7月	外部の専門的立場の方々から指導・助言を受けることを目的とした「北海道博物館設置プラン検討委員会」を開拓記念館が設置
平成24(2012)年	3月	北海道博物館設置プラン検討委員会の「北海道博物館リニューアル検討報告書」を北海道環境生活部長へ提出
	6月	リニューアルプランを踏まえた、バリアフリー化や消火設備の改良など、来館者の安全性・利便性を図るため、展示改修基本計画を含んだ施設改修実施設計を実施(～平成25年3月)
平成25(2013)年	7月	常設展示場展示改修実施設計を実施(～平成26年3月)
	12月	施設改修工事修正実施設計を実施(～平成26年3月)
平成26(2014)年	7月	常設展示室等展示改修工事施工(～平成27年3月)
	9月	「北海道博物館」のロゴマークを作成するにあたり「北海道と民間企業等との協働に関する期間限定型事業提案」募集(～10月)
	10月	「北海道立総合博物館条例」公布 「北海道博物館基本的運営方針―北海道博物館の目指す方向―」を決定
	11月	「北海道博物館」の愛称募集(～12月12日)
	12月	札幌市立大学デザイン学部からの提案を受け、同大学との協働により「北海道博物館」のロゴマークを作成(～1月)
平成27(2015)年	1月	「北海道博物館」の愛称「森のちゃれんが」決定
	2月	ロゴマーク決定
	3月	「北海道博物館」のホームページ開設

	4月	北海道博物館設置（条例・規則施行）、総務部に総括、企画の2グループ、学芸部に博物館基盤、道民サービス、社会貢献の3グループ、研究部に自然研究、歴史研究、生活文化研究、博物館研究の4グループ、アイヌ民族文化研究センター内にアイヌ文化研究グループを置く 開館記念式典挙行（17日）、開館（18日）
	7月	「北海道博物館赤れんがサテライト」リニューアルオープン
	8月	平成27年度第1回北海道立総合博物館協議会開催（記念ホール）
	9月	開館記念特別展「夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界」開催（～11月） 累計来館者数が10万人を達成（20日）
	11月	平成27年度第1回北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催（記念ホール） 北海道・アルバータ州姉妹提携35周年記念事業「Across Borders: 石川直樹写真展」開催
平成28(2016)年	2月	「北東アジアの中の北海道」研究プロジェクト」ロシア・サハリン州と調印
	3月	「北方文化共同研究事業」カナダ・アルバータ州と調印 平成27年度第2回北海道立総合博物館協議会開催（本庁別館）
	7月	第2回特別展「ジオパークへ行こう！ 一恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅」開催（～9月）
	8月	平成28年度第1回北海道立総合博物館協議会開催（記念ホール） 累計来館者数20万人を達成（11日） 平成28年度北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催（ホテルポールスター札幌）
平成29(2017)年	3月	平成28年度第2回北海道立総合博物館協議会開催（本庁別館）
	7月	第3回特別展「プレイボール！ 一北海道と野球をめぐる物語」開催（～9月）
	8月	累計来館者数30万人を達成（25日）
	9月	平成29年度第1回北海道立総合博物館協議会開催（講堂）
	11月	平成29年度北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催（講堂）
平成30(2018)年	3月	平成29年度第2回北海道立総合博物館協議会開催（講堂）

## 統合した2つの施設

### (1)北海道開拓記念館

北海道開拓記念館は、北海道百年記念事業の1つとして、「北海道の生い立ち、開拓の足跡を示す資料を収集、保存し、展示して北海道の歴史と未来への課題や可能性の認識に役立てるとともに、今後、道内におけるこの種の施設のセンターとしての役割を果たし、北海道の開発に寄与せしめる」（「北海道開拓記念館構想」（昭和42（1967）年））ことを目的に、昭和46（1971）年に総合的な歴史博物館として設置されました。

昭和37(1962)年		百年記念事業について知事と民間有識者との懇談会において、総合博物館の設置が話題になる
昭和39(1964)年	9月	道政モニターにおいて、百年記念事業のうち、開拓遺物や文化財などを永久に保存するため、郷土館（博物館、記念館）の設置への賛成が96%に達する
昭和41(1966)年	2月	記念建造物等設置検討会を開催し、記念地域・記念塔・記念館について有識者の意見を聴取する
	3月	「北海道百年記念事業実施方針」と事業実施の「準備計画」が決定され、北海道開拓記念館の建設が明文化される
	4月	北海道企画部に北海道百年記念事業準備室を設置する
昭和42(1967)年	5月	北海道百年記念事業事務局設置、業務課に記念館係を置く
	9月	「北海道開拓記念館開設協議会」を設置する（以下、開設協議会と略す）
	11月	第1回開設協議会を開催し、「開拓記念館構想試案」の検討を行い「構想」の決定をみる
昭和43(1968)年	11月	北海道百年記念事業事務局を廃止し、道総務部に北海道百年記念施設建設事務所を設置する 第2回開設協議会を開催する
昭和44(1969)年	11月	学芸職員を中心に「北海道開拓記念館業務計画案」を作成する
	12月	開設協議会を開催し、建設の設計変更、企画運営専門部会設置、業務計画案、展示計画試案等について協議を行う
昭和45(1970)年	4月	北海道開拓記念館開設準備事務所が設置され、北海道百年記念施設建設事務所から独立する。展示係、資料収集係、資料管理係が置かれ、学芸研究職員が増員される
	7月	開設協議会を開催し、昭和45年度事務所機構、館の英名、展示計画について協議を行う
	9月	開拓記念館第1期建築工事竣工及び展示工事開始
	11月	開拓記念館第2期建築工事が竣工
昭和46(1971)年	3月	「北海道開拓記念館条例」公布 開設協議会最終会議を開催する（現地視察）
	4月	北海道開拓記念館が開設（1日） 北海道開拓記念館開館式を挙行（14日）

### (2)北海道立アイヌ民族文化研究センター

1990年代のはじめ、アイヌ語やアイヌの習俗・技術等の生活文化を知る古老が高齢化し、伝承が難しくなる一方で、国内にアイヌ文化を専門的に研究する機関がない状況でした。また研究に必要な資料（音声テープ、文献等）が散在し、資料の散逸やテープの劣化等も懸念されていました。こうした状況の中、平成3（1991）年4月、知事公約の「アイヌ民族文化研究センター設置構想」により、具体的な検討に着手しました。

その後、庁内の検討及び関係者からの意見聴取等を経て、道は「アイヌ文化はアイヌ民族が北海道で育んできた貴重な文化であり、今日の北海道の文化に多くの影響を与えてきた重要な資産であることから、アイヌ文化の研究を振興し、アイヌ文化の継承、発展を図る」ことを目的に、平成6（1994）年6月にアイヌ文化の総合的・体系的な研究を推進する専門的研究機関として、アイヌ民族文化研究センターを設置しました。

平成3(1991)年	3月	現職の横路孝弘知事が公約「新しい北海道の創造—素晴らしき人と大地とともに—」の中で「アイヌ民族文化研究センターの設置」を掲げて、再選
	7月	「アイヌ民族文化研究センター構想検討会議」を設置する（～平成4年9月）
	10月	「アイヌ文化の保存・研究」についての知事懇談会を開催する（2回）（～平成5年9月）
	12月	アイヌ文化研究者等からアイヌ語に関する要望書が知事に提出される
平成4(1992)年	4月	道内外のアイヌ文化研究者等から意見聴取を行う（～8月）
平成5(1993)年	1月	「アイヌ民族文化の研究方策懇話会」を開催する（2回）（～2月）
	5月	「アイヌ民族文化研究センター検討会議」を設置する（～10月）
平成6(1994)年	3月	「北海道立アイヌ民族文化研究センター条例」公布
	6月	北海道立アイヌ民族文化研究センター開所

## 2 北海道博物館の使命

平成 22 (2010) 年 9 月に北海道が策定した「北海道博物館基本計画」を踏まえ、博物館をとりまく社会情勢の変化、北海道の地域的特性、北海道の中核的博物館としての役割などを総合的に見極め、北海道博物館が果たすべき社会的使命を定めました。

- 北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けます。
- 野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒やしとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。
- 北海道の中核的博物館として、道内の博物館等との連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちに応えます。
- 北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

## 3 北海道博物館の愛称「森のちゃれんが」とロゴマーク

### 愛称

北海道博物館がより道民の身近な存在として親しみをもっていただけるよう、同館の愛称を道民からの公募により定めることにしました。短期間でしたが、小さなお子さまからお年寄りまで、多くの方がたから応募がありました。

応募作品のなかから、有識者や利用者代表による選考を経て、札幌市の高校生の作品「森のちゃれんが」が、北海道博物館の愛称に選ばれました。

この愛称には、野幌の森の緑に囲まれた美しいれんが造りの博物館を、道庁の赤れんが庁舎とともに世界に発信したいとの思いがこめられています。また、新しく生まれ変わりチャレンジしていく博物館というイメージをも、感じ取ることができます。

### ロゴマーク

北海道博物館のロゴマークは、北海道と民間企業などとのタイアップ事業として、札幌市立大学のご協力を得て、作成しました。

札幌市立大学デザイン学部武田ゼミの学生たち 9 名がチームを組み、まずは北海道博物館の視察を行い、新しく生まれ変わる博物館のイメージを膨らませました。そして、ロゴマーク案を 20 案作成し、そのなかから 11 案を学生自らが厳選し、有識者や利用者代表による選考委員会に提出しました。

選考の結果、愛称として決まった「森のちゃれんが」にちなみ博物館の建物をモチーフとし、配色はれんがに色に統一したこのデザインが、北海道博物館のロゴマークとして選ばれました。



## 4 施設概要

### 館の位置と環境

北海道博物館は、札幌市の中心部から東方約 15 km の地点にある道立自然公園野幌森林公園の中にあります。この公園は、昭和 43 (1968) 年 5 月に北海道百年を記念して、自然公園法に基づく自然公園として指定されたものです。札幌市、江別市及び北広島市の 3 市にまたがる公園の区域は、標高 20~90m のなだらかな丘陵地に広がる森林を主とし、2,053ha の面積を有し、大都市の近郊にある自然性の高い平地林としては世界的にも例が少ない貴重なものです。

公園の主体をなす国有林約 1,600ha は、昭和の森・野幌自然休養林として石狩森林管理署が遊歩道を整備し、管理しています。公園内の遊歩道の総延長は 30 km 以上に及び、散策、自然観察や冬の歩くスキーなどに利用されています。国有林の西側に接する道有地の一部は記念施設地区となっており、北海道博物館のほか、野外博物館としての北海道開拓の村や北海道百年記念塔などを集中的に設置しています。また、平成 13 (2001) 年 4 月には大沢口に、公園利用者の中核施設として、自然ふれあい交流館が設置されました。

公園に接する付近一帯には、道立図書館、道立教育研究所、道立埋蔵文化財センターや大学、高等学校などがあり、札幌市と江別市の文教地区ともなっています。

野幌森林公園は、一般には野幌原始林として知られていますが、公園区域内の天然林には、風害の処理のための伐採や補植など、何らかの人手が加えられており、実際に人手の加わっていない「原始林」はありません（国指定特別天然記念物「野幌原始林」は、公園区域から離れた北広島市内の国有林内にあります）。それでも公園区域内の天然林には、温帯林から亜寒帯林への移行帯に位置する森林の様子が比較的良好に残されており、ミズナラ、カツラ、シナノキなどの温帯性の広葉樹林、トドマツを主体とする亜寒帯性の針葉樹林、これらの樹種が入り交じった針広混交林からなる、多様な林相が見られます。人工林も全体の 40% ほどを占めるようになっていて、明治の末から林業試験場によって試験植栽されたストロブマツやトウヒなど、60 種を超える外来樹種が見られ、大径木も多くあります。

公園内には、キツネ、タヌキ、ユキウサギ、エゾリス、エゾモモンガ、ヒメネズミなどの小・中哺乳動物が生息しています。また、天然記念物のクマゲラを始め、ウグイス、オオルリ、キビタキ、シマエナガ、シジュウカラ、アカゲラなど、およそ 140 種の野鳥が記録されています。



### 建物の基本構想と設計

本館の建物は、昭和 45 (1970) 年 11 月に北海道開拓記念館として建設された建物です。北海道開拓記念館の建物の設計は、この建物自体が永く後世に残る記念建造物となるようにこの町村金吾北海道知事（当時）の要望により、その建設計画を北海道と縁の深い佐藤武夫博士が主宰していた佐藤武夫設計事務所に委託し、野幌産出の赤れんが（約 75 万本）を豪壮に用いた芸術性の高い建物が完成しました。

また、開拓記念館の開館当初の博物館としての性格、機能、展示構想などは、当時北海道史編纂を行っていた大飼哲夫（開拓記念館初代館長）、高倉新一郎（同第 2 代館長）が中心となり、展示室の空間計画を飯田勝幸（北海道大学工学部建築工学科助教授（当時））、展示ディスプレイ・デザインを北海道出身のデザイナーである栗谷川健一の「北海道デザイン研究所（当時）」（その後、北海道造形デザイン専門学校となり平成 27 年 3 月閉校）が担当しました。この建築家・学者・展示の三者連携による博物館づくりの思想は、メキシコの国立人類学博物館をモデルにしたものでした。なお、昭和 48 (1973) 年に本館は日本建築学会賞を受賞しました。

## 施設の概要

北海道博物館は、地下2階、地上2階一部中2階建て、その延面積は12,947㎡です。これを部門別にみると、管理部門14.6%、展示部門28.8%、教育普及部門8.3%、研究部門3.2%、資料管理部門20.8%、共用部門24.3%となります。構造は、鉄筋コンクリート、一部鉄骨鉄筋コンクリート造であり、外装は、主として江別市の野幌産のれんが積みにアルミ電解発色材の柱を配しており、内部も、グランドホール、ホール、講堂、記念ホール、休憩ラウンジなどの主要な室の壁はれんが積みとなっています。

主要室の配置は、1階には玄関、グランドホール、記念ホール、館長室、事務室等の管理諸室と総合展示室を配し、2階には総合展示室、特別展示室、中2階は休憩ラウンジを配しています。中地下1階には、約200人収容の講堂、はっけん広場等の教育普及の諸室のほか、書庫、図書室、第4・5収蔵庫、研究室を配しています。地下1階には、第1・2・3収蔵庫と資料搬入搬出のための作業諸室を設け、特に第1収蔵庫は恒温恒湿の管理ができ、重要資料の収蔵にあてています。そのほか冷暖房機械室、給排水ポンプ室、受変電室などを配しています。

- 1 敷地面積……………16,258㎡
- 2 建築面積……………4,018㎡
- 3 建築延床面積……………12,947㎡
- 4 主要室の床面積(端数整理)

事務室……………	314㎡
館長室……………	37㎡
副館長室……………	28㎡
応接室……………	24㎡
会議室……………	37㎡
機械室……………	1,446㎡
展示室 総合展示室……………	3,011㎡
特別展示室……………	665㎡
準備室1……………	20㎡
準備室2……………	36㎡
講堂……………	363㎡
記念ホール……………	270㎡
はっけん広場……………	140㎡
はっけん準備室……………	44㎡
第1書庫……………	148㎡
第2書庫……………	75㎡
図書室……………	86㎡
研究室1……………	56㎡
(アイヌ民族文化研究センター)	
研究室2……………	39㎡
研究室3……………	42㎡
研究室4……………	42㎡
研究室5……………	39㎡
研究室6……………	18㎡
研究室7……………	40㎡
研究室8,9……………	124㎡
外来研究室……………	30㎡
電子顕微鏡室……………	16㎡
収蔵庫 第1収蔵庫……………	415㎡
第2収蔵庫……………	475㎡
第3収蔵庫……………	1,096㎡
第4・5収蔵庫……………	406㎡
書庫……………	74㎡
資料受入整理室……………	65㎡
保存処理室……………	44㎡
資料情報室……………	44㎡
休憩ラウンジ……………	391㎡
グランドホール……………	264㎡
廊下・階段等……………	2,490㎡

### 5 外部仕上げ

屋 根	アスファルト防水層、コンクリート金こて仕上げ
庇	軒先アルミ板折曲加工、電解発色仕上げ
壁	煉瓦フランス積貼、紋様入
独立柱	キャストアルミ、電解発色仕上げ
南面デッキ	袖壁花崗岩(小叩き)ばり、上部床花崗岩(円盤摺)敷き

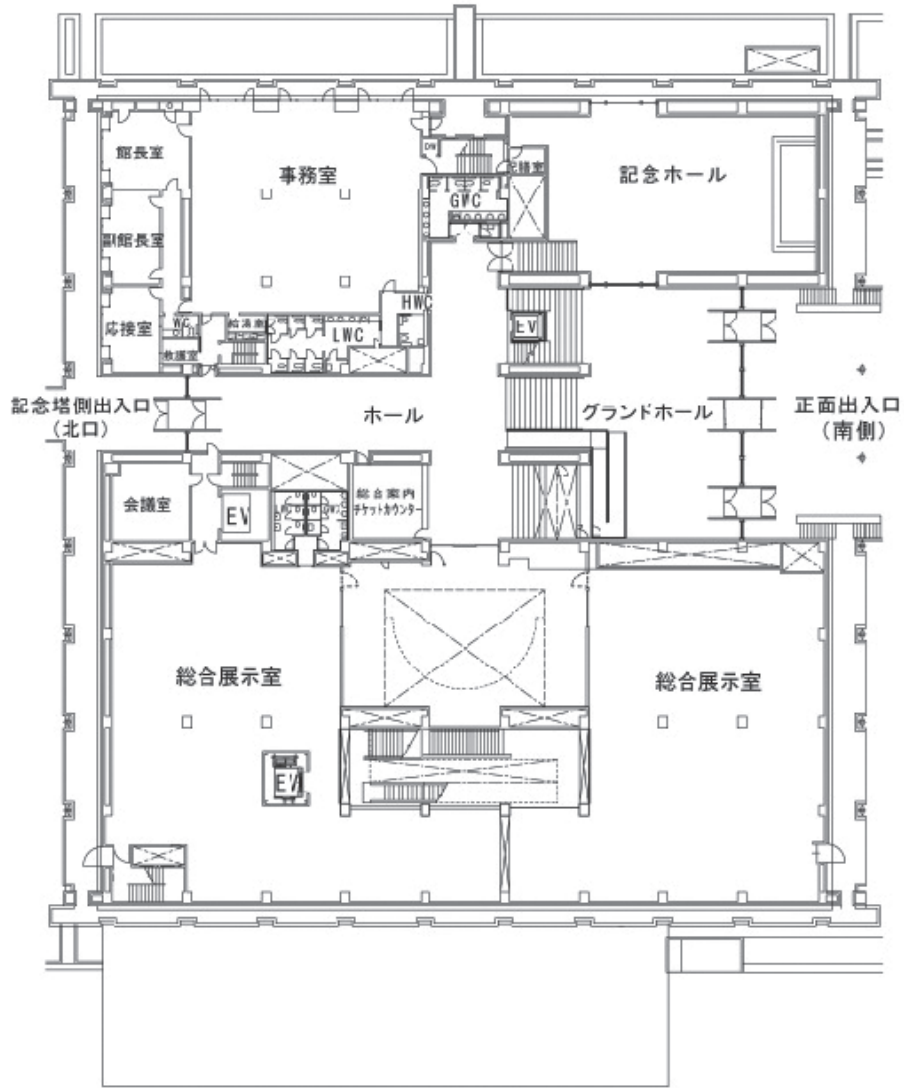
### 6 内装仕上げ

室名	床	壁	天井
グランドホール	花崗岩(円盤すり)敷き、ボーダー水みがき仕上げ、一部大理石モザイク紋様ばり	れんがフランス積み(一部紋様入り)	エポキシ系マット塗料仕上げ、梁型アクリルクリヤ仕上げ
記念ホール	カーペット敷	同上	エポキシ系マット塗料仕上げ、梁型アクリルクリヤ仕上げ
講堂	モザイクパーケットブロック張	れんが表手積(黄色)、一部透積、裏面グラスウールφ20mm張	岩綿吸音板張
館長室	カーペット敷	合板練付C.L	同上
副館長室	同上	同上	同上
応接室	同上	同上	特別織り布張
研究室	ビニール系アスベストタイル	キャンバス貼M.P塗装	岩綿吸音板張
総合展示室	モザイクパーケットブロック、ワックスみがき	発泡合成樹脂板打込モルタル塗	岩綿吸音板
はっけん広場	モザイクパーケットブロック	モルタル金こて仕上げ目地切、キャンバス張	同上
収蔵庫	リノウム張	モルタル金こて仕上げEPおよびフレキシブルボード目透張V.P	コンクリート打ち止め、リシン吹き付けおよびフレキシブルボード目透V.P
休憩ラウンジ	モザイクパーケットブロック、ワックスみがき	れんがフランス積み(黄色)	合板練付C.L
休憩ラウンジ前ロビー	同上	同上	リシン吹付

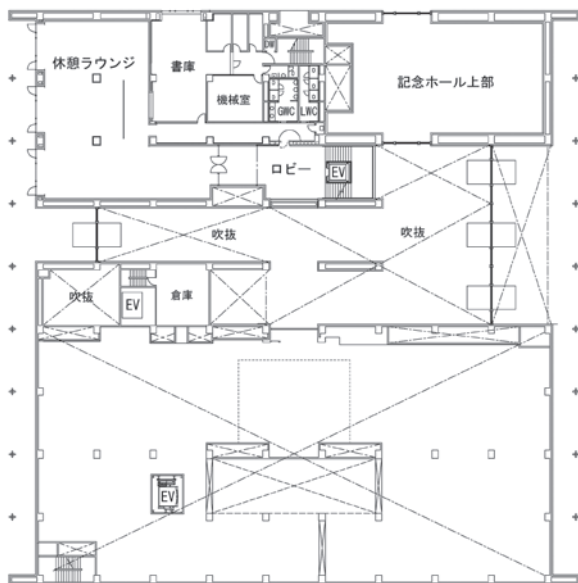
### 7 付帯設備

空気調節設備	室内条件 収蔵庫・展示室＝室温夏季25度・相対湿度55±5%、冬季22度・55±5% 冷熱源 吸収式冷凍機1基、冷房能力108万8,760kcal/時 空調系統 単一ダクト方式＝総合展示室・特別展示室・講堂・事務室・ホール・記念ホール・収蔵庫・休憩スペース
電気設備	変電・自家発電・舞台照明・動力・昇降機・放送・音響・その他
衛生設備	給水＝全館水道水使用、給湯・排水・プロパンガス
消火設備	ハロンガス消火・炭酸ガス消火・スプリンクラー・屋内消火栓

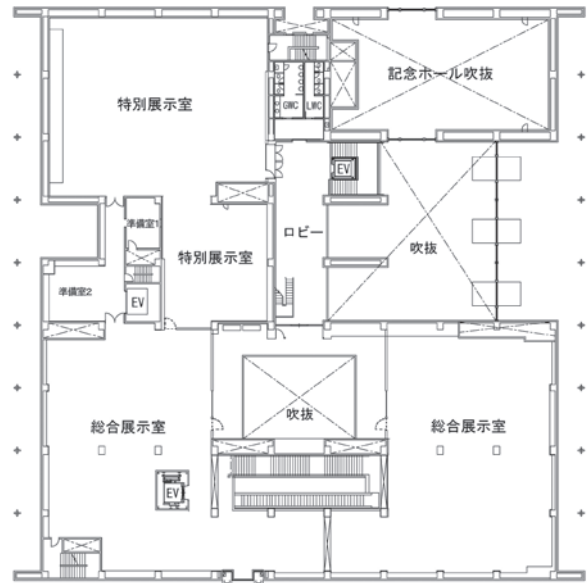
1 階 平 面 図



中 2 階 平 面 図

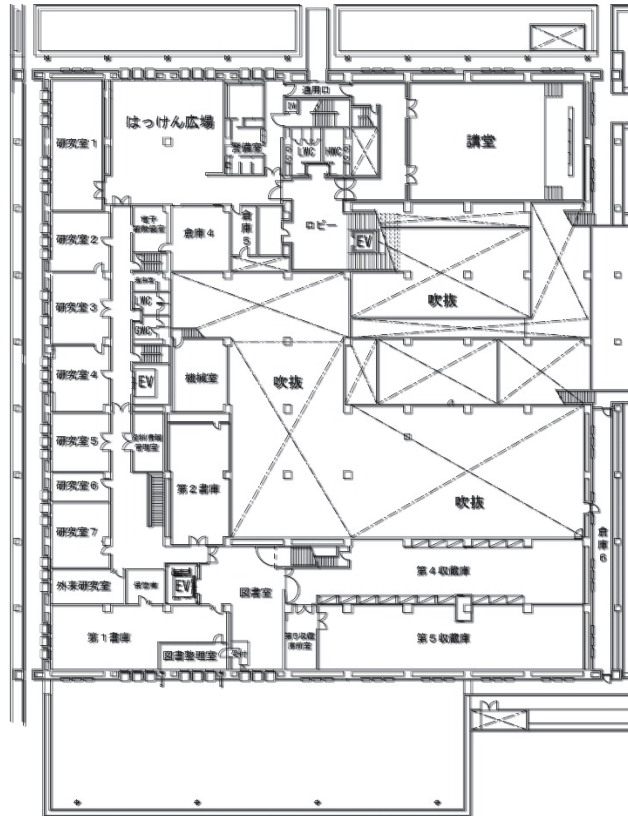


2 階 平 面 図

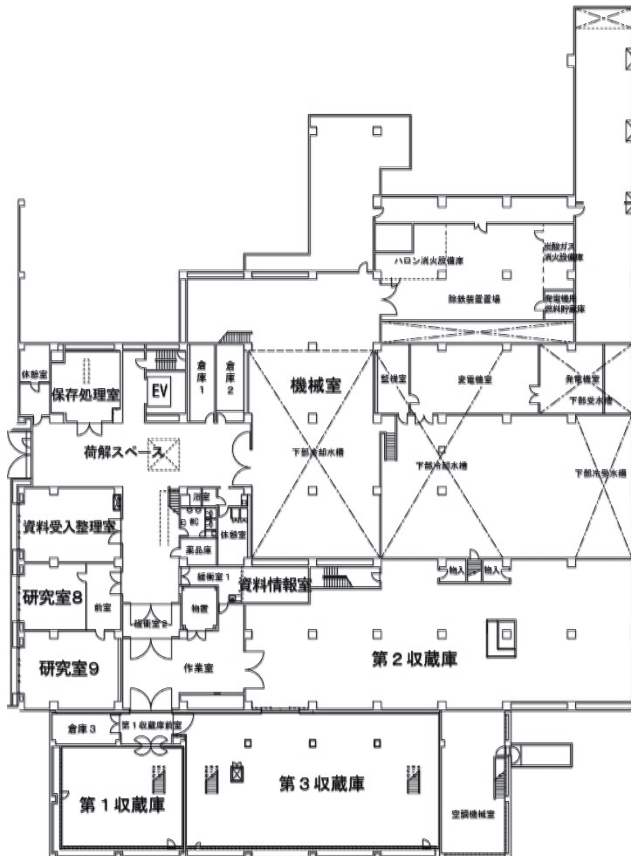




中地下1階平面図



地下1階平面図

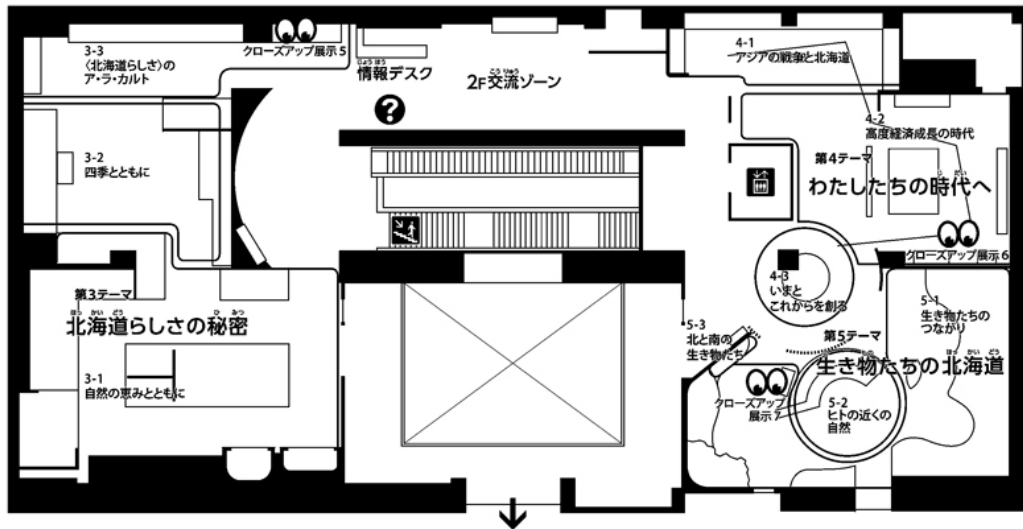


## 5 総合展示室

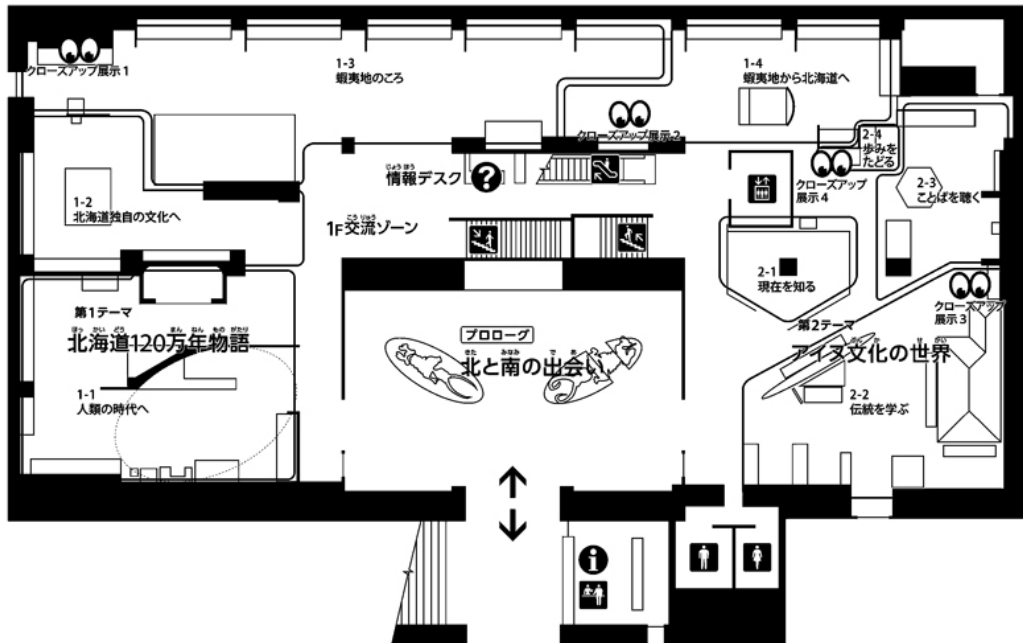
総合展示は、1・2階の3,011㎡の面積で展開され、「北東アジアのなかの北海道」、「自然と人とのかかわり」をコンセプトに、幅広い世代が楽しめる展示を設けるとともに、来館者の関心で自由にテーマを選んで観覧できるように、北海道の自然・歴史・文化を5つのテーマにわけて展示しています。1階は歴史と文化を主題とした第1テーマ「北海道120万年物語」と第2テーマ「アイヌ文化の世界」で構成しています。2階は文化、歴史、自然を主題とした第3テーマ「北海道らしさの秘密」、第4テーマ「わたしたちの時代へ」、第5テーマ「生き物たちの北海道」で構成しています。その他に、五感を刺激する展示や、時期によって展示内容を変える「クローズアップ展示」などもあります。

総合展示室内の各階にある交流ゾーン内には、博物館のスタッフが常駐する情報デスクを設け、来館者の質問等にお答えしています。またこの交流ゾーンで学芸員が総合展示の見どころなどを紹介するミュージアムトーク（祝日限定）を開催しています。

# 2F



# 1F



## プロローグ 北と南の出会い

---

北海道を日本の北端ととらえるイメージの転換を図り、さまざまな方向から多様な生き物や人・モノ・文化が往来した地であることを語る展示にしています。



## 第1テーマ 北海道 120 万年物語

---

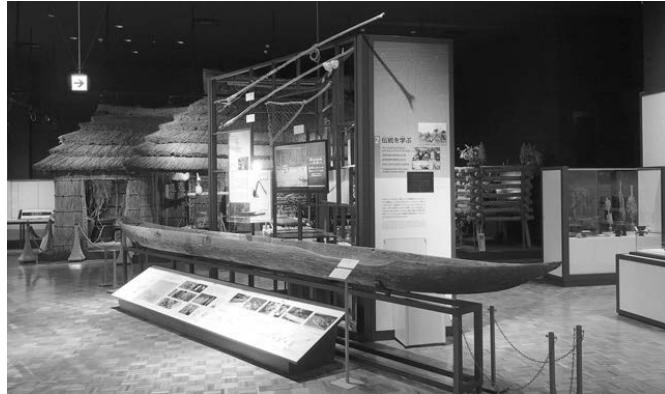
北海道という大地の始まり（約 120 万年前）から、さまざまな文化とその担い手の時代をへて、多くの移民がやってくるまで（明治中頃まで）の歴史を展示しています。



## 第2テーマ アイヌ文化の世界

---

北海道の先住民族であるアイヌ民族の、伝統的な生活文化、伝承されてきた〈ことば〉の世界、近現代の歴史および現在の姿を展示しています。



## 第3テーマ 北海道らしさの秘密

---

多様な人びとが築いてきた近現代の北海道。そこにあらわれる〈北海道らしさ〉のわけを、「産業」と「暮らし」の視点から展示しています。



## 第4テーマ わたしたちの時代へ

---

北海道が、戦争と開発・高度経済成長という大きな変化を経験する時代を、さまざまな立場や考え方を視野に入れ、社会の動きと人びとの意識・時代との関わりから展示しています。



## 第5テーマ 生き物たちの北海道

---

北海道の多様な生き物たち。ヒトとの関わりもおりまぜながら、それを支える「つながり」を生き物の視点から展示しています。



## 6 特別展示室

特別展示室は、総合展示室の2階出口を進んだ左側に位置しています。面積665㎡、固定ケースや移動・組立て可能なケース、パネルなどが設備されています。この展示室では、特別展や企画テーマ展などを開催します。

特 別 展	総合展示で扱っている北海道の自然・歴史・文化の内容をさらに深めた展示を企画するものです。年に1回開催し、観覧料は有料です。
企 画 テ ー マ 展	当館収蔵資料を中心とする企画展示で、年に数回、開催します。研究成果等に関わる特定のテーマを掘り下げたり広く捉えたりする展示などを実施しています。観覧料は無料です。
蔵 出 し 展	当館が所蔵しているコレクションや資料群などを公開することを目的とした展示会です。年に1~2回開催し、観覧料は無料です。(平成28(2016)年度まで)



## 7 館内の施設

### はっけん広場

北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができる部屋です。「毛皮にさわろう」「なつかしのオモチャで遊ぼう」などの「はっけんキット」から好きなものを選び、自然の不思議や昔の人の知恵など、それまで知らなかった何かを「発見」することができます。土曜・日曜日や祝日には、「はっけんイベント」を開催しています。



## 図書室

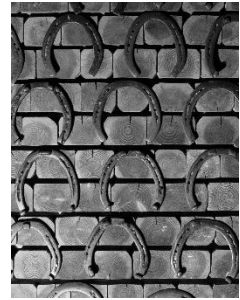
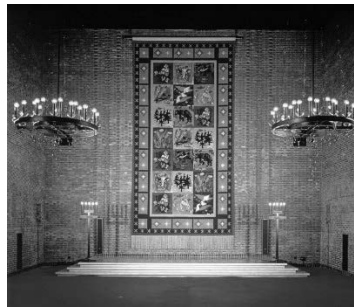
図書室には当館の出版物のほか、一般図書や雑誌、他の博物館の展示図録などがあり、来館者が閲覧できるようになっています。

来館者のさまざまな質問、より専門的な調査や当館資料の利用についての相談に応じるレファレンスサービスも行っています。



## 記念ホール

記念ホールは当館の象徴として計画され、各種の式典に使用されています。床には赤いカーペットが敷かれ、正面には、北海道の風物を織り込んだタペストリー（壁掛）が掛けられています。入口の左側にあたる、正面と向き合った壁の一面には、北海道の産業や生活に重要な役割を果たしてきた馬の功績を称え、その供養をする意味で、大小約1,600個の蹄鉄が壁面に打ちつけられています。



## 講堂

講堂は、グランドホールから階段を下りた中地下1階に位置しています。約200人の収容が可能で、当館主催の講座・講演会など、各種の行事に利用されています。また、学校団体などのグループレクチャーや昼食会場などとしても活用されています。



## 休憩ラウンジ

休憩ラウンジは中2階に位置し、入口付近には自動販売機を設置しています。約100名の利用が可能で、来館中の休憩や飲食などにご利用いただいています。なお、休憩ラウンジで食事は提供していません。



## ミュージアム・カフェ

ミュージアム・カフェは、グランドホール内に設けられ、コーヒーなどの飲み物や、パン・ドーナツなどの軽食を楽しむことができます（約40席）。また、オリジナルグッズやお土産、当館の出版物などを販売し、ミュージアムショップの役割も担っています。





## 8 周辺の施設

### 北海道開拓の村

北海道開拓の村は、明治から昭和初期にかけて建築された北海道各地の歴史的建造物を移築復元・再現した野外博物館です。貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えるとともに、開拓当時の人びとのくらしを体験的に理解してもらうことを目的として、昭和58（1983）年に開村しました。市街地群、漁村群、農村群、山村群の4つのエリアに52棟の歴史的建造物が建ち、街並や景観が再現され、全体が展示空間になっています。

夏には、「馬車鉄道」が市街のメインストリートを走り、冬には「馬そり」が村内を回ります。季節の移り変わりを知らせる村祭りや年中行事、農作業などの生活体験イベントを行っています。体験学習棟では、伝統遊具づくり、お手玉やおはじき、コマなどの昔の遊びを体験することができます。また、ボランティアによる手フート印刷の操作実演やわら細工の実演、建造物の解説・ガイドツアーなども行っています。



### 野幌森林公園自然ふれあい交流館

平成13（2001）年にオープンした「野幌森林公園自然ふれあい交流館」は、道立自然公園野幌森林公園のビジターセンターです。館内では、公園内の自然のつながりをジオラマやイラスト・写真などでわかりやすく紹介しており、野幌森林公園のなりたちや植生、森にすむ生き物のことを知ることができます。

館内では、絵本や図鑑、専門図書など約2,500冊を自由に読むことができ、専門のスタッフに質問することもできます。公園を散策する前に立ち寄れば、樹木の見分け方や花・昆虫の種類などが分かるようになります。

また、月に1回自然観察会を開催しているほか、子どもからお年寄りの方まで楽しく体験できる「もりの工作コーナー」、親子自然教室・講演会など、自然をテーマにした各種イベントを開催しています。このほか、顕微鏡コーナーや鳥の音が聴けるスキヤントーク、タッチパネル式のクイズ、積み木などの木製遊具などもあり、館内でも公園内の自然を学習できます。

